



PROFILE プロフィール

1951年名古屋市で生まれる。1977年日本デザインセンターに入社し、ポスターやパッケージのデザインの仕事に就く。1982年東京ADC賞、ポスター広告賞通賞受賞。1983年水谷事務所設立。1984年日本グラフィックデザイナー協会新人賞、1995年第9回ニューヨークアートディレクターズクラブ国際展・金賞、1996年第15回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ展・金賞、1997年第10回コロラド国際ポスター招待展最高賞を受賞。1999年「笑顔は世界共通のコミュニケーション」をコンセプトにMerry Projectを立ち上げる。震災後の神戸、サッカー・ワールドカップの試合会場、同時多発テロ1年後のニューヨーク、愛知万博会場など、活動はさまざまどころに及ぶ。同時に、自分たちの足元の環境を見直す必要を感じ、ゴミ拾いプロジェクトを進める。2005年12月写真集「Merry EXPO Book of global exchange」(新風舎)を発行。これらの活動に対して、2005年デザイン・オブ・ザ・イヤー賞を受賞。Merryプロジェクトについてのホームページ <http://www.21merry.net>

いま、君たちに伝えたいこと

「生命」をテーマにした子どもたちへのメッセージ

地球いっぱい、笑顔で Merry(幸せ)にしたい

Merryプロジェクト代表

水谷孝次

「あなたにとって、Merry(幸せ)とは何ですか?」わたしは世界各国を旅して、人々にそう尋ねています。「夢は地球を明るくすること」「平和が一番」など、それぞれの Merry 観が返ってきました。

世界の人々の笑顔の写真を撮影し、「あなたにとって Merry なじみ」の直筆メッセージを集めて、各地で展示しています。これが、六年ほど前から継続中のプロジェクト「Merry」です。昨年の愛知万博では、愛・地球広場の巨大スクリーンに、今まで集めた笑顔とメッセージを映し出しました。スクリーンを見上げる人たちも笑顔を浮かべていました。わたしは、二十三国を訪れ、世界の人たちほぼ二万人の笑顔をフィルムに収めてきました。笑顔を撮り続けて、貧しい国の人々の笑顔がきれいで強い輝きをもつことに気付きました。

そんな笑顔に出会うたびに、わたし自身、そして日本人の笑顔はどうだろうかと考えさせられます。印象的だった場所の一つは南アフリカです。アパルトヘイトで知られ、貧富の差が激しいところでした。わたしが向かったのは、ケープタウンのタウンシップ、貧しい黒人たちの居住地でした。孤児、エイズなど深刻な問題を抱えている場所で、普通は外国人

「クレムリン近くの小学校へ向かい、一年生とその家族の写真を撮りました。言葉では言い表せないくらい美しい笑顔を見せてくれました。その後公園で、ダウン症の子どもを連れとおばあちゃんに会い、Merry に協力してもらいました。写真を撮っているとき、子どもが笑顔になりました。

「いつも笑わないこの子が笑ってくれた。この子が Merry に参加してくれたことが最高の Merry だ」おばあちゃんが本当に幸せそうに話してくれました。ロシアは、政治的にも経済的にも混乱し、民族対立によるテロが頻発しています。そんな土地でありながら、キラキラとした Merry にたくさん出会うことができました。

キューバの都市ハバナ。アメリカから経済制裁を受け、お金のない国です。今でも配給制度が残っています。しかし、陽気で Merry な人たちがばかりでした。どこに行っても、撮影の前には周囲のゴミ拾いをしますが、ここでは、子どもたちが、「ぼくも拾います」と手伝ってくれました。気持ちよく印象的でした。そこで撮影したおじいさんに Merry を尋ねると、「子どもたちがいい教育を受けて、いい世の中を作ってくれること」という答えが返って

が訪れる場所ではありません。ところが、足を踏み入れると、子どもたちが集まってきました。貧しいけれど、ものすごく元気。粗末な掘っ立て小屋の住居が並ぶ街の中にある小学校も訪問しました。コンテナでできた小さな教室に、四十人近くの子どもがすし詰め状態です。教科書を買える子なんていません。先生はボランティアで教えています。わたしが写真を撮り始めると、笑顔の渦が巻き起こりました。みんな、生き生きしています。同行してくださいました政府の女性は「笑顔は自由の象徴」と言いました。アパルトヘイトの影が濃かったから、今の光がより明るいのかもしれません。光と影。影が強いところほど、光も Merry も強いと感じられます。笑顔ウォッチの旅を重ねるほどに、負の遺産を抱えた苦しい状況に生きている子どもたちほど笑顔が輝いているように思えてきました。

一昨年九月一日、入学式に集まる笑顔を撮りたいと思って、モスクワにいました。北オセチア共和国で武装集団が小学校を占拠した悲惨な事件が起こった、まさしくその日です。八月の下旬には、撮影していた隣の駅で爆弾テロ事件が起こったばかりでした。「こういふときこそ笑顔が大切。Merry をやる

きました。キューバは、子どもたちに社会の未来を託す気持ち強い国で、子どもたちも「もつと勉強しなければ」という気持ちをもっているように感じられました。

「Merry? 何もない。今まで一度もない。でも、今日は Merry よ。なぜって、あなたが来てくれたから。こんなに笑ったこと、今までなかったから」と言って、涙を流してくれた人がいました。この活動を続けてきて、最高の Merry をもらった思いがしました。

「和顔愛語」二千年前のブツダのメッセージです。これこそ Merry。何もなければ、笑顔と優しい言葉を相手に与えてください。必ず笑顔と優しい言葉があなたに返ってきます。まさに、メリー・ゴー・ラウンドです。

「いつか六十五億人の笑顔を撮影し、地球を Merry でいっぱいしたい」人々を幸せにする笑顔の力を、わたしは信じています。あなたにとって、「Merry」とは何ですか。

*アパルトヘイト 南アフリカ共和国で行われてきた、白人支配者層による有色人種に対する人種差別・隔離政策。一九四八年に法制化され、以後強力に推進された。一九九四年に激しい国際非難を浴び貿易禁止などの経済制裁を受け、法律上は廃止された。
*テロ 政治的目的を達成するために、暗殺・暴行・破壊活動など直接的な暴力に訴えること。